

港の復旧に 災害廃棄物を活用。

復興へ向けて。

災害廃棄物(津波堆積土)を活用して防波堤をいち早く復旧。

八戸港の北防波堤は、津波により全延長3,494mの内、約4割のケーソン(コンクリートの箱)が転倒したため、75箇のケーソンを据え直すことになりました。

一方、八戸市内には津波により大量の土砂が堆積し、その処分が大きな課題となっており、津波堆積土約1.4万m³(ダンプトラック2,800台分)を、ケーソンの中詰材に活用することとしています。

北防波堤は、現在まで約800mの復旧が完了し、貨物船などが安心して八戸港に入港することができるようになりました。



防波堤断面図

- 【通常時】
○ケーソン中詰材に「砂」や「砕石」を使用。
【今回】
●ケーソン中詰材に「津波堆積土」や「震災ガラ」を使用。

